

# タイヤを上手に使っていただくために

## 危険防止のために!!

### 空気充填

- ▲ **危険** ● 破裂の危険を避けるため、タイヤを安全開いの中に入れる等、安全措置を講じた上、空気を充填してください。
- ▲ **警告** ● タイヤリム組み時のビードシーティング圧は、必ず300kPa (3.0kgf/cm<sup>2</sup>)以下の空気圧で実施してください。(ビードシーティングとは、タイヤ組立時にタイヤの両側のビードがリムのビードシート部に周上均等にのった状態をいいます。)  
注) ロックリング式の場合は、50kPa (0.5kgf/cm<sup>2</sup>)となります。
- ビードシーティング圧以下の空気を注入後、タイヤの両側のビードがリムのシート部に周上均等にのっているかを確認し、使用空気圧を充填してください。

### タイヤの傷

- ▲ **危険** ● コードに達している外傷・ゴム割れのあるタイヤは、本来のタイヤ強度が損なわれ破壊の危険がありますので使用しないでください。修理が可能かどうかについては販売店にご相談ください。

## 安全維持・性能維持のために!!

### タイヤ選択時の注意

- 車両メーカーが指定した標準タイヤ又はオプションタイヤを使用してください。
- 全輪とも、同一の種類、構造、サイズのタイヤを使用してください。なお、車両メーカーが軸別にサイズの異なるタイヤを指定した場合は、その指示に従ってください。
- チューブ、フラップは、タイヤサイズと同一サイズで、バルブは車両及びホイールに適合するものを使用してください。
- 新品タイヤには、新品のチューブ、フラップを使用してください。
- タイヤの種類及びサイズに適合したホイールを使用してください。また、チューブレスタイヤには必ずチューブレス用ホイールを使用してください。

### 異物・傷の点検

- ▲ **警告** ● ホイールには、亀裂、変形等の損傷や著しい腐食がないことを確認してください。
- タイヤに、亀裂又は釘、金属片、ガラス等が刺さっていたり、溝に石その他異物を噛み込んでいないか確認してください。異物を発見した時は、全て取り除いてください。

### ならし走行

- 新品タイヤ装着時にはタイヤがなれるまで、通常稼働の70%程度で、50時間又は、200km以上のならし走行を行なってください。

### タイヤ・ホイール装着時の注意

- チューブレスタイヤはビード周辺のキズなどで空気もれを起こすことがありますので、リム組み時には、必ず当社推奨の潤滑剤を塗布してください。
- タイヤ内の異物や水分によりタイヤの機能を損なう場合があります。リム組み前にタイヤ内を点検し、異物や水分を取り除いてください。
- コンプレッサー内の水もタイヤ内に入る場合がありますので、定期的にドレイン抜きをしてください。

- 複輪タイヤ使用の場合、外径差が大きいと早期損傷や偏摩耗により安全性、経済性が損なわれます。複輪での外径差は、9.00 (相当サイズ)以上のラジアルタイヤは8mm以内、バイアスタイヤは12mm以内、8.25 (相当サイズ)以下のラジアルタイヤは6mm以内、バイアスタイヤは8mm以内であることを確認ください。外径差がある場合は、小さい方を内側に装着ください。また、タンデム軸の軸間外径差は、6mm以内です。

### 空気圧に関する注意

- ▲ **警告** ● エアコンプレッサーの調整弁は、タイヤ破裂の危険があるので、タイヤの使用空気圧に応じ、下表により正しく調整ください。

#### エアコンプレッサー調整弁の最高調整空気圧

タイヤの使用空気圧区分	調整弁の最高調整空気圧
400kPa (4.0kgf/cm <sup>2</sup> ) まで	500kPa (5.0kgf/cm <sup>2</sup> )
400kPa (4.0kgf/cm <sup>2</sup> ) 超～600kPa (6.0kgf/cm <sup>2</sup> ) まで	700kPa (7.0kgf/cm <sup>2</sup> )
600kPa (6.0kgf/cm <sup>2</sup> ) 超～1,000kPa (10.0kgf/cm <sup>2</sup> ) 未満	1,000kPa (10.0kgf/cm <sup>2</sup> )

- ▲ **警告** ● タイヤの空気圧は、走行前の冷えている時に車両メーカーの指定空気圧に調整ください。空気圧に過不足があると、タイヤが損傷したり、事故につながるおそれがあります。
- 走行時及び走行後は熱によって空気圧が高くなりますが、決して抜かないでください。

### 摩耗限度

- ▲ **警告** ● すり減ったタイヤは、運動性能が低下したり、濡れた路面でスリップしやすくなるなど危険です。新品タイヤとお取り換えください。
- ▲ **警告** ● 積雪及び凍結路走行の場合は、冬用タイヤの残り溝が新品時の50%以上ある(トレッドにプラットフォームが露出していない)ことを確認ください。溝深さが50%未満のタイヤは、冬用タイヤとしては使用できません。

### 安全走行ポイント

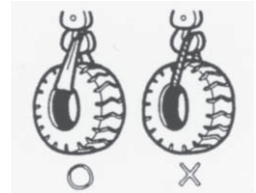
- ▲ **警告** ● 急発進、急加速、急旋回及び急停止は危険ですので避けてください。特に、湿潤路、積雪路及び凍結路は滑りやすく、事故なるおそれがあるため、急カーブでは減速するなど、道路状況に応じた適切な運転をしてください。
- ▲ **警告** ● タイヤを傷つけるおそれがあるので、道路の縁石等にタイヤの側面を接触させたり、道路上の突起物乗り上げは避けてください。
- 走行中は、常に走行速度に応じた車間距離を確保してください。特に、湿潤路、積雪路及び凍結路走行時は十分な車間距離を確保してください。

### タイヤ保管

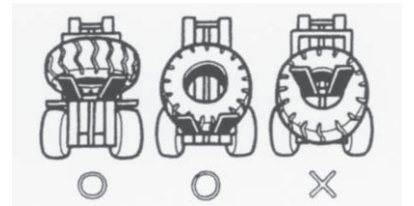
- タイヤ、チューブは、直射日光、雨及び水、油類、ストーブ等の熱源及び電気火花の出る装置を避けて保管ください。
- ▲ **警告** ● 水平な場所に立てて置き、動かないようにしっかり歯止めをして、転がったり倒れたりしないような措置をしてください。
- ▲ **警告** ● 部外者の立入りできない倉庫に保管ください。屋外の場合、必ず開いを設け、幼児にも分かるよう立入り禁止の表示をしてください。

### 運搬上の注意

- ▲ **警告** ● ORタイヤは非常に重いため、人の力で支えようとすると思わぬ事故につながります。取扱いには十分ご注意ください。
- 積み降ろし・移動にはできるだけクレーン又はフォークリフトを使用してください。
- ビード部の損傷をさけるため、ワイヤーロープは避け、ナイロンリングを使用してください。



- フォークリフトの爪をビード部に当てると傷が入りやすくなります。必ず図のように下から持ち上げてください。



### 位置交換

- タイヤの摩耗は、駆動輪と遊輪、操舵輪等装着位置によって受ける力が異なるため、均一にはなりません。異常振動・騒音の防止及びタイヤ寿命を伸ばすため、位置交換(ローテーション)を適宜実施ください。

### 過積載

- 過積載はタイヤ損傷の原因となったり、タイヤの寿命を短くするばかりでなく、ホイール割れなどの故障にもつながりかねません。過積載使用は避けてください。また、片荷等かたよった積載も避けてください。

### ホイール・アライメント

- 車両の足廻りに異常が生じると操縦安定性不良、異常摩耗が発生する場合がありますので、適宜ホイール・アライメントを確認、調整ください。

### タイヤチェーン使用時の注意

- タイヤチェーンは、タイヤサイズに適合するサイズのもの装着ください。(4×4車両は車種により異なりますので、車両の取扱説明書に従ってください。)
- タイヤにチェーンを装着して積雪路及び凍結路以外の道路を走行すると、タイヤ、チェーン及び車両を損傷したり、スリップするおそれがあるので、避けてください。
- タイヤにチェーンを装着しての走行は、金属製チェーンでは30km/h以下、非金属製チェーンでは50km/h以下の速度をお守りください。

### その他の注意

- ▲ **警告** ● リ・グループ、穴あけ等再加工したタイヤは、損傷したり、事故になるおそれがあるので、使用しないでください。